

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2020年7月1日 202号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

レダの若きパイオニア

川久保安史(かわくぼやすし)君



エビの幼生を観察。



エビの養殖研究に勤しむ川久保君。

私は約二年半のパラグアイボート会社での勤務を終え、今年の一月にレダに来ることになりました。私は以前から「養殖で世界の飢餓問題の解決に貢献したい」と思っていました。そこで、レダでパクー やエビの養殖をやつてること、レダで若い人材を必要としていることを知り、レダに行くことを決心しました。同じパラグアイにいながら、レダに来ることになるとは想像もしていませんでしたが、本当に天の導きを感じ、心から感謝しています。レダに来てからはオニテナガエビの養殖を担当しています。私自身不足ながらも、歴代の担当者の方々が残してくれた貴重なデータを基に、日々勉強し、成功や失敗を経験しながら、少しずつ学んできました。

今、オニテナガエビの養殖にはいくつかの課題があります。「配合飼料のコスト削減」「地下塩水の利用」「種苗生存率アップ」「販売権取得」「冬場対策」などです。その中で今回は「冬場対策」の現状について報告したいと思います。

オニテナガエビは水温が14°Cを下回ると斃死(へいし)してしまふといわれています。そのため冬場に屋外で飼育することにはリスクがあります。亜熱帯に位置する、比較的暖かなレダの気候でも、冬には最低気温が10°Cを下回ります。

冬が近づくにつれ、冬場の寒さをどう克服するのかという課題が頭を悩ませました。そんな中、冬場対策についての話をしている時に、ふと二つの良いアイディアが浮かびました。

一つ目は、「養殖池の水位をできるだけ高く維持する」ことです。それにより、水が冷えるのを遅くします。

二つ目は、「いつも水温がある程度保たれている『川の水』を、一日の中で最も気温が下がる夕方から朝にかけて、養殖池に流し続ける」というものです。そこで今年の四月から川の水温を測り始めました。レダの川岸でパラグアイ川から取った水の温度は、気温が40°Cを超える日にも30°C以下に保たれ、逆に気温が10°C近くに下がっても水温は20°Cを下回っていません。

水温があまり下がらない理由は、川の流れの中では常に複雑な対流が生じること、またパラグアイ川が、赤道に近い、より暖かい地方からレダへと流れてくるからだと思われます。

それらの方法で、今年の初冬に入り(六月上旬現在)、気温の低い期間に試したところ、早朝の気温が11°Cのとき、養殖池の水温を最低でも18°C以上に保つことができました。(四面に続く)

エビの屋外養殖の難関「冬場対策」に取り組む

2020年パクー稚魚放流式

プエルト・レダ 6月13日



放流式は恒例通り飛行場北端の岬で。



稚魚の放流後、それぞれ記念撮影。



今年度のパクー稚魚放流式は、青年たちが中心となって準備を進め、実行された。式典は当日午後、岩澤所長のメッセージで開始。右は司会の竹内君。巨大パクーのオブジェも、青年たちがヤシの枝を用いて作った。



数名ずつバケツを持って放流する。



従業員のマリアデーザーさんも放流。



海軍派出所の軍人も放流を楽しむ。



放流した稚魚の平均体長は約15cm。



前もって午前中に、養殖池からパクーの稚魚を網で取り出した。



テントの設営作業も、青年たちが中心になって実行。



放流式の感動を語りつつ、美味しい焼肉とマンディオカを口に。

レダ基地スナップ



パクー養殖飼料のロウヤシの実を準備する作業。6月6日



プエルト・カナンの放牧基地。6月7日



豊村氏が釣ったドラド。6月7日



岩澤所長と伊達氏の釣果。5月17日



岩澤所長と海軍の新赴任者が会食。6月2日



食材を管理する大和田氏。5月18日



調理前のエビ。串焼きに。5月15日



タロイモ田で作業する岡師氏。5月16日



豚ランドを囲う柵を造る作業チーム。6月3日



皆でエビの串焼きを試食する。従業員食堂にて、5月15日

エビ養殖の冬場対策研究

(一面より続く) まだ安心はできませんが、このままの調子でいけば、冬場における養殖池での飼育が可能かもしれません。

冬場にわざわざ屋外の養殖池でオニテナガエビを飼育しようとするのには理由があります。

1. 屋内で飼育するのには、多くの手間と光熱費、人件費などのコストかかる。
2. 現在、屋内で飼育するための場所が少なく、限られている。

三. 屋外の池は、自然の餌や、水質を維持してくれる微生物が多く存在するため、エビの成長にとってより良い環境が揃っている、などです。

現在は、実験するべき内容が多いため、屋内飼育に多くのコストをかけていますが、将来的には冬場に池での飼育が可能になれば、孵化からポストラバ(稚エビ)になるまでの幼生期間以外、通年で屋外の池を利用することができるようになります。より生産性を上げていけると思います。

最後に、今後の抱負を話したいと思います。私はレダに来た当初から「ボランティア」ではなく、「献身」したつもりできました。叶うならばここで骨を

埋めるつもりで活動し続ける所存です。

不足ではありますが日々精進し、レダにかけられた天の願いを叶えるために、この地を守り、発展させる事に、共に全力を尽くしていきたいと思います。

川久保安史(かわくぼやすし)
■(編注・この連載記事は、若者個人の日常生活、心情、抱負などを紹介するものです。言うまでもなく、レダ基地運営の基本方針を必ずしも代表するものではありませんが、このレポートに含まれたメッセージを汲み取っていただければと思います。)



左より、岩澤所長、川久保君、青木氏。3月15日



成長したエビ用のチップ飼料を作る。6月3日

第21回パンタナー一日研修会延期のお知らせ

新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、同研修会(ワンデイセミナー)は10月3日(土)に再延期いたします。会場(東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟4階)、プログラム、参加費(2000円)等は変わりません。万一の状況により再延期となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。

第27回環境問題研究会セミナー延期のお知らせ

同じ理由により、9月5日(土)に再延期いたしました。講師、テーマ、会場(川崎市の大山街道ふるさと館3階)、時間(午後1時半~4時)、参加費(無料)等に変更はありません。状況により変更となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com
ホームページ: <https://asd-nsa.com>
Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



<https://asd-nsa.com/nk/>

入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。
パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>